資料６

入試制度見直しに係る検討のポイント

１　学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度の導入について

① 導入の是非

② 入学定員に占める募集割合（規模感）

③ 試験の方法等

・各校の特色に応じた試験の具体

例）他県では、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技検査等を実施

・各校特色に応じた選抜方法と併せた学力検査の必要性

・日本語を母語としない生徒や不登校生徒に対する試験の在り方

④ 実施時期

２　県外生徒の受入の拡充について

① 一家転住を除く県外生徒（身元引受人制度（地域みらい留学）の活用）の受入拡充の是非

② 入学定員に対する県外枠の設定の必要性

・県内の志願者が定員を上回る場合には、定員の外に県外枠を設定することも考えられる。

３　入試の実施時期の見直しについて

① 現行の入試制度（選抜のすべてを３月に実施）の評価

＜中学校校長の主な意見＞

・選抜の日程を前倒しされると、中学校側の授業時数の問題が生じてくる（全ての範囲を学習できない）。

・入試後から卒業に至るまでの期間が長くなればなるほど学習への意欲の低下も大きくなると考えられる（校内の秩序が保たれない可能性が大いに考えられる）。

＜高等学校校長の主な意見＞

・私学や県外ではすでに入試が実施されており、３月からの試験では生徒の確保の点で難しさがある。

・高校教員の業務（卒業式、入試業務、在校生の年度末の成績処理、指導要録など）が大変多忙で、ミスが許されない内容が同時期に重なりすぎる。

② 学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度の導入や県外生徒の受入拡充との関連性